

事業番号	09 04 07	事業改善シート（令和5年度実施事業分）	<input type="checkbox"/> 当初要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	水産振興事業	部局	農政部	課・室	園芸畜産課	
		実施期間	S25 ～	E-mail	enchiku @ pref.nagano.lg.jp	

1 現状と課題

本県の水産業は内水面養殖業と河川湖沼漁業からなる。養殖業では、信州サーモンをはじめとする信州ブランド魚の生産が行われているが、小規模事業者が多く、経営の安定が求められる。河川湖沼漁業では、高齢化と担い手不足が進展するに従い、組合の収入減少により増殖放流量が少なくなり、遊漁者の減少を招いている。

2 事業目的

本県の水産業を持続的に発展させるために、河川湖沼における自然生態系の生産力を生かした水産資源の増殖や、特徴ある漁場づくりなどにより活力ある漁協経営を実現するとともに、消費者や実需者から求められる魚づくりで儲かる養殖業の実現を目指す。

3 事業目的を達成するための取組

①信州サーモン、信州大王イワナのブランド化に向けた種苗生産・供給


- ・実需者等のニーズに応えブランド化を図るため、信州サーモンと信州大王イワナの稚魚を生産し、県内養殖業者に安定供給。
- ・令和5年度は、信州サーモン40万尾、信州大王イワナ7万尾を生産。

②諏訪湖におけるワカサギ等有用水産資源の増殖技術の開発

- ・ワカサギの採卵量を安定させ、資源の増殖を図るとともに、湖内で捕獲した親魚を用いた新たな増殖技術を開発。
- ・テナガエビの種苗の大量生産技術を開発するとともに、諏訪湖に適した資源管理方法の確立に向けた調査を実施。

③カワウ等の食害防止に対する支援

- ・カワウやブラックバス等の外来魚による魚の食害を防ぐため、漁協が行う追い払いや駆除等の取組を支援。



信州サーモンの出荷の様子

4 成果指標

(推移の凡例 ↗:改善 ↘:悪化 →:変化なし ー:数値なし)

No.	指標名	単位	R3年度		R4年度		R5年度		R5年度 目標値	達成 状況	目標値設定理由
			実績	実績	推移	実績	推移				
①	信州ブランド魚の生産量	t	357	431	↗	350	↘	395	未達成	第4期長野県食と農業振興計画における達成指標（令和5年度：395t→令和9年度：485t）の初年度である令和5年度は395tを目標とする。	
②	諏訪湖におけるワカサギ等有用水産資源の増殖技術開発	取組課題数	4	3	↘	5	↗	5	達成	試験研究推進計画の研究課題のうち、R5年度における取組課題数とした。	
③	カワウ等の食害防止に対する支援を受ける団体数	団体数	12	11	↘	11	→	11	達成	カワウ等の食害防止に対する取組の支援（経費補助）を受ける団体数を目標とする。	

5 本事業が貢献する総合5か年計画の施策分野と達成目標

No.	施策分野（施策の総合的展開名）	達成目標 （★印が付いているものは主要目標）	単位	直近3か年の状況						目標	
				年	数値	年	数値	年	数値	年	数値
2-1①	成長産業の創出・振興	★農業農村総生産額	億円	2021 (R3)	3,539	2022 (R4)	3,719	2023 (R5)	3,992 (県推計)	2027 (R9)	3,700

6 事業コスト

(単位：千円、人)

区分	予算額					決算額	職員数
	前年度繰越	当初予算	補正予算等	合計 (予算現額)			
R5年度	22,572	102,576	0	125,148	54,257	101,651	29.5
R4年度	0	108,147	44,900	153,047	73,826	122,174	29.5
R3年度	0	92,833	0	92,833	51,803	86,943	29.5

事業番号	09 04 07	事業改善シート（令和5年度実施事業分）	<input type="checkbox"/> 当初要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	水産振興事業		部局	農政部	課・室	園芸畜産課

7 主な取組実績と成果

① 信州サーモン、信州大王イワナのブランド化に向けた種苗生産・供給

- ・令和5年度の信州サーモンの種苗供給量は42.8万尾であり、新型コロナ流行前の最高実績（R元年度：41.0万尾）を上回った。
- ・令和5年度の信州大王イワナの種苗供給量は4.6万尾となった。

② 諏訪湖におけるワカサギ等有用水産資源の増殖技術の開発

- ・ワカサギ採卵量の安定化、資源増加を目的とした試験2課題に取り組んだ。
- ・テナガエビ種苗の大量生産技術の開発、諏訪湖に適した資源管理方法の確立に向けた試験・調査3課題に取り組んだ。

③ カワウ等の食害防止に対する支援

- ・県単の外来魚等食害防止対策事業により、外来魚対策8団体、カワウ対策7団体、ミンク対策2団体の取組に経費補助し、漁業被害防止対策を推進した。
- ・上記事業により、外来魚75,271尾、カワウ71羽、ミンク15頭の駆除に寄与した。

8 成果指標の達成状況に関する要因分析

指標①	信州ブランド魚の生産量	R4年度推移	↗	R5年度推移	↘	達成状況	未達成
R2年度の新型コロナ流行により、先行きの不透明感から養殖業者が種苗を買い控えたことで、当時の稚魚が出荷サイズとなるR5年度は生産量が減少した。							
指標②	諏訪湖におけるワカサギ等有用水産資源の増殖技術開発	R4年度推移	↘	R5年度推移	↗	達成状況	達成
ワカサギ及びテナガエビの増殖等技術開発に向け、試験研究を進めており、5課題すべてに取り組んだ。							
指標③	カワウ等の食害防止に対する支援を受ける団体数	R4年度推移	↘	R5年度推移	→	達成状況	達成
地域振興局を通じて漁業協同組合等団体へ外来魚等食害防止対策事業を周知したことにより取組意識の向上が図られ、前年度と同数の11団体に支援できた。							

9 今後の事業の方向性

(1) 上記7、8及び県民の意見等を踏まえた課題

- ・信州サーモンはR5年4月G7外相会合の夕食会への提供などにより県内外からの注目が集まり、供給が需要に追いついていない現状がある。需要にこたえるため、養殖業者は2kg未満の比較的小さいサイズでも出荷せざるを得ない状況にあり、新型コロナ流行前よりも生産量が減少している。飼育期間の短縮や病気などによる損失を低減する技術を開発し、生産効率を向上させる必要がある。
- ・ワカサギ及びテナガエビについては、特産物として諏訪地域市民からの漁獲量増加の要望が強く、資源量増加のための技術開発が求められている。R5年度に取り組んだ課題の継続と開発した技術の漁業者等に対する普及の役割りを果たしていく必要がある。
- ・カワウや外来魚等による漁業被害低減のためには、最新知見等を活かした漁業協同組合等による継続した取り組みが求められる。漁業協同組合等が効率よく対策を講じていくため、経費の補助や最新知見等の普及を継続していく必要がある。

(2) 事業改善の方策

- ・信州サーモンの種苗供給量は新型コロナ流行によりR2年度に落ち込んだもののR3～4年度に徐々に持ち直し、R5年度は新型コロナ流行前を上回った。2～3年後の生産量増加に向け、養殖業者への生産効率向上のための技術支援を継続する。
- ・R5年度に取り組んだワカサギ及びテナガエビに関する取組の継続と今後の課題への対処により、増殖技術の開発と速やかな技術普及を進める。
- ・漁業協同組合等団体による継続した食害対策に資するため、外来魚等食害防止対策事業の活用促進や最新知見等の普及指導に努める。

事業名	水産振興事業	部局	農政部	課・室	園芸畜産課
-----	---------------	----	-----	-----	-------

細事業 No.	細事業名		R3年度 決算額	R4年度 決算額	R5年度 決算額
1	水産試験場種苗開発費		24,266 千円	28,171 千円	26,767 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和5年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	ニジマス種苗供給 在来マス・信州サーモン種苗供給	直接	養殖魚の品質向上及びブランド魚普及のための種苗を供給 信州サーモン 42.8万尾 信州大王イワナ 4.6万尾 ニジマス 卵212.5万粒 イワナ 2.1万尾、卵5.0万粒		
2	アユの種苗供給	直接	河川での水産資源の増大及び養殖魚の品質向上のための種苗を供給 アユ 47.2万尾		
3	シナノユキマス・フナ等種苗供給	直接	河川での水産資源の増大及び養殖魚の品質向上のための種苗を供給 シナノユキマス 89.1万尾 フナ 1.2トン ウグイ 10.7万尾、卵162万粒		

細事業 No.	細事業名		R3年度 決算額	R4年度 決算額	R5年度 決算額
2	水産試験場試験研究費		14,151 千円	16,632 千円	17,611 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和5年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	増養殖技術の改良・確立	直接	増養殖技術の高度化のための魚病対策、資源管理技術の開発研究を実施 研究に取り組んだ課題数 5 件		
2	市場性の高い品種の開発	直接	品質の良い養殖魚を生産するための優良品種を開発 研究に取り組んだ課題数 2 件		
3	水産環境の保全	直接	水産資源の保護培養のための環境保全対策研究を実施 研究に取り組んだ課題数 2 件		

細事業 No.	細事業名		R3年度 決算額	R4年度 決算額	R5年度 決算額
3	水産試験場技術指導費		3,168 千円	3,852 千円	3,286 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和5年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	養殖漁業指導	直接	養殖業の発展を図るため、魚病診断・対策指導など安全・安心な魚づくりに関する指導及び養魚場巡回指導を実施。また、養魚技術講習会を開催 指導件数507件、講習会 1 回		
2	河川湖沼漁業指導	直接	河川湖沼漁業の発展を図るため、外来魚対策など環境保全指導、増殖手法の普及や漁場管理の指導を実施 指導件数376件		
3	寒天製造技術指導	直接	良質な天然寒天の安定生産を図るため、藻の性状分析、製品等の依頼分析を実施 寒天依頼分析件数179件		

細事業 No.	細事業名	R3年度 決算額	R4年度 決算額	R5年度 決算額
4	水産試験場運営費	42,452 千円	59,263 千円	44,413 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和5年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	水産試験場の円滑な運営	直接	水産試験場の円滑な運営・管理を実施 県内4試験場・試験地の運営	

細事業 No.	細事業名	R3年度 決算額	R4年度 決算額	R5年度 決算額
5	外来魚等食害防止対策事業	1,538 千円	1,562 千円	1,506 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和5年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	外来魚等食害防止対策推進事業	直接	外来魚等食害防止対策事業を推進するため、調整等の事務を実施 打合せ会議1回	
2	外来魚等食害防止対策事業	補助金	外来魚等による漁業被害防止のため、それらの駆除及び食害防止に要する経費を補助（補助先：漁協等） 外来魚対策8団体、カワウ対策7団体、ミンク対策2団体	

細事業 No.	細事業名	R3年度 決算額	R4年度 決算額	R5年度 決算額
6	諏訪湖環境改善対策事業	20 千円	6 千円	11 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和5年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	漁場活性化のための取組検討	直接	関係行政や市民団体等とともに諏訪湖の環境改善の活動の一環として、課題の把握や具体的取り組みの検討を目的とした推進会議に参画し、指導助言を実施 会議への出席 2回	

細事業 No.	細事業名	R3年度 決算額	R4年度 決算額	R5年度 決算額
7	漁業指導事業	1,301 千円	922 千円	2,866 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和5年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	漁業指導調整事業	直接	漁業法に基づき設置が義務付けられた委員会で、知事の諮問事項等を協議 委員会の開催4回	
2	組合検査指導事業	直接	適正な漁場管理を図るため、漁業協同組合の管轄エリアを図示した地図を作成 漁業権漁場図の作成	
3	漁場利用調整事業	直接	健全な漁協運営を図るため、漁業協同組合の業務、会計状況を検査（31漁協等） 会計状況の検査12漁協	

細事業 No.	細事業名		R3年度 決算額	R4年度 決算額	R5年度 決算額
8	養魚用配合飼料価格高騰緊急対策事業		0 千円	11,766 千円	5,191 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和5年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	配合飼料価格高騰分補填事業	補助金	<ul style="list-style-type: none"> ・県内養殖業者に対し、配合飼料の価格高騰分の費用の一部を助成 ・国の配合飼料価格安定制度未加入者に対しては、加入を要件とすることで、未加入者の加入を促進 補助業者数 24業者 補助額 5,181千円 制度加入率8%→24%		
2	配合飼料価格高騰分補填推進事業	補助金	上記事業に係る事務経費の一部を助成 補助件数 3件 補助額 10千円		